



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り
令和5年 2月号
ヨハネスブルグ日本人学校

「友だちとの輪」、「友だちとの和」って何だろう!?

2月の生活目標は、『友達との和を考えよう』でした。友達と仲良くすることはとても大事なことであることは、誰でも知っていることです。最初の関わりがどんなに小さなことであっても、人と人の関わりは、その後、大きな変化をもたらすもの。

このことを子供たちに少し考えてほしいと考え、以下の話(実話)を読んで伝えました。その人にとって、自分の人生を変える出会いは、年を重ねても一生忘れることのできないものになり得ることをきっと子供たちも感じてくれたと自負しています。



遠い昔、私が小学4年生の頃の話です。

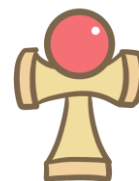
当時の僕は人見知りで臆病で、積極的に話しかけたりするのが出来ない性格でした。休み時間、みんなは外に出て遊んでいても、僕は教室の椅子にずっと座っていました。

しかし、一人でいるのが好きな訳ではないので、凄く寂しい思いをしていました。

ある日、休み時間いつも通り席に座っていると、隣の席の女子に「何で男子のみんなと遊びに行かないの」と言われました。



その時は、つい強がって「外で遊びたい気分じゃないから」と言いました。暫くしてその子に「じゃあ、私と中で遊ぼう」と言われ、けん玉をしたりお手玉をしたり、だんだん楽しくなっていまいキャッチボールをしていたら、担任の先生に「それ外遊びだから、教室でやらないで」と怒られました。



下校の時間、その人を見かけたので、「休み時間の時、楽しかったね」と言うと、「先生には怒られたけどね」と言いました。

翌日も、その翌日も、その子と遊んでいたら、だんだんと遊ぶ人数が増えて行き、それから僕はクラスの男子とも外に出て遊ぶようになりました。

それから何週間か過ぎたある休み時間、外に出ようとしたら、その子に「待って」と言われました。

しかし、その子は何も言わなかったので「休み時間終わったらでいい?」と遊びに行きました。

その日のホームルームの時間、担任の先生から、その子が転校することを伝えられました。

その時の僕は、親友だと思っていたその子に大事なことを伝えてもらえなかった事に腹を立てていて、その人の気持ちを考えることが出来ませんでした。

掃除の時間になり、その子の机を運んでいたら、引き出しからお手玉が落ちました。その瞬間、僕はあの日、その子と遊んだことが今までで一番楽しかった事を思い出しました。

あの日、人生で初めて友達が出来たことが嬉しくて嬉しくて、嬉しさのあまり泣いてしまったのを思い出しました。

僕は考えました。

その人と会わなかったら、僕は誰とも話すことができなくて寂しく人生を送っていた。その人は僕の人生を変えてくれた運命の人だと思いました。



帰りの会が終わり、僕はその人に「本当にありがとう、友達になってくれて」と言いました。

そしたらその人にこう言われました。

「君のおかげで私も楽しかった。私のこと忘れないでね」あれから60年、私は今年で70歳になりますが、あの人の事は今も忘れていません。



行事で育つ！「ふれあいウィーク」「野外活動」を実施しました。

1月下旬に、3学期の大きな学校行事である「ふれあいウィーク」「野外学習活動」を実施しました。「ふれあいウィーク」は、G1からG4の子どもたちが、3日間に亘って、動物の観察、ベリー摘み、ビーズ工芸やアイススケート、ブライなどの活動を行いました。普段の授業とは異なり、楽しい活動の中に、事前の計画から実施、事後の反省までとても充実した時間を過ごすことができました。

一方、G5～G8の子供たちは、ドラケンスバーグでの「野外学習活動」を実施し、乗馬やトレッキング、自炊でのロコモコ丼づくり、アスレチックを存分に体験しました。個々の子供の良さが十分に発揮され、引率した教員もその場面を見るたびに満面の笑顔になりました。

学校行事として、全ての計画を無事に終えることができました。教育では、「子供は行事で育つ」と言われます。少し、具体的にどのようなことか考えてみました。



行事で育つ力は、まず、「人間関係形成力」があります。例えば、運動会でのリレーのチームや競技、学級、学年と様々な人との関わりが必要となります。今回の行事も、学年の枠を超えた関わりがあらこちらで垣間見え、関わりを通じた成長がたくさんありました。

次に、「物事をやり遂げる粘り強さ」です。得意なことならさらに、苦手なことならこの機会に逃げることなく、自分に与えられた役割を全うしました。



最後は、「計画を立てて行う実行力」です。ほとんどの計画を教師側で準備してしまうのではなく、子どもたちにできる限り委ねました。もちろん一人一人の子供の力は十分に発揮されたのですが、特にリーダー的な役割を担った子供たちは、声の出し方や態度、雰囲気までが大きな成長を感じさせてくれました。



これらの他にも、「人の役に立とうとする心・公共心」は、日々の高学年から低学年への指導や気配りは、よく言われる「キャリア教育」そのものとも言えそうです。

また、学力の下支えとして大切な「自己肯定感」の育成においても重要です。

様々な学校行事は、子どもたちそれぞれの個性を出して他者に認められるよい機会です。行事ごとに学校や学級に居場所ができることとなります。ただ、「認める」ことにおいて、「よくできた」「頑張った」という結果だけではなく、経過をほめて

いくことを大切にしたいと考えます。

今後の学校行事については、さらに子どもたちの主体性を大切にできればと考えます。子どもたちから「こんなことがやってみたい。」「こんな工夫を考えた。」などがたくさん出てくるよう主体的な取組に挑戦していくことも可能だと思います。

次年度の様々な行事での子供たちのこれらの面での活躍をぜひご期待頂ければ幸いです。

「ふれあいウィーク」からの一コマ



「野外学習活動」からの一コマ

